

シリーズ“私の風景誌”よりⅣ

(1998年～2002年)

My Record of the Scenery——Series IV
(Wood Works——Sculpture)

坪井勝人 Katsuhito Tsuboi

私の風景誌について

「木を彫り刻む」といった作業の中から私自信が最近思う事は「風景の中の光の存在」についてである。現実の時間とイリジュージョンの世界を往き交う時の流れに身を委ね、その狭間の内より見えてくる「私の風景」。

時を遡り、その風景と光を知覚する。そして「樹」から「木」へと移り変わってゆく私の深い森の中で輪廻の種子を探し続けている。



「輪廻の森」1998

5点組 H700～2500・各W1800・D1800 楠・鉄・ネオン管



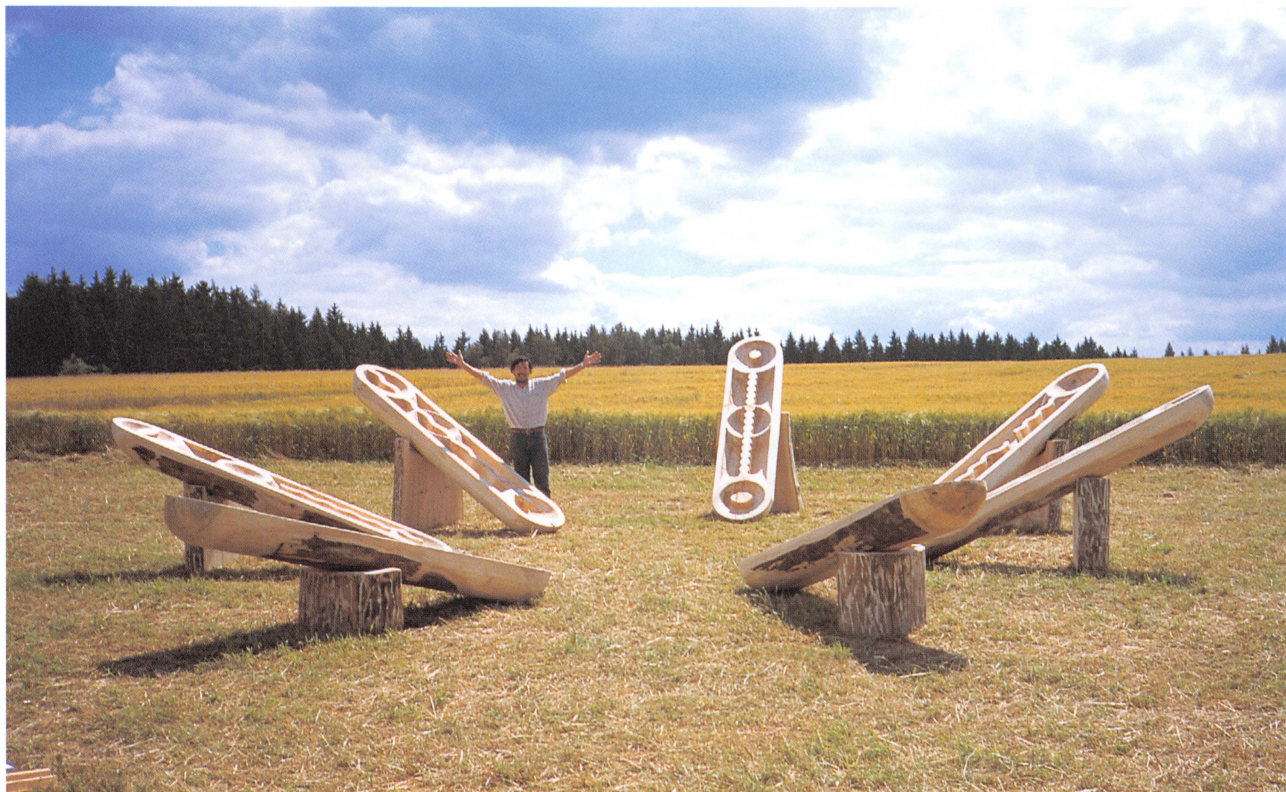
レイチェル・カーソン女史に捧ぐ「沈黙の宴」1998
H650・W2200・D750 板・石膏・ネオン管

ドイツ国際木彫シンポジウム

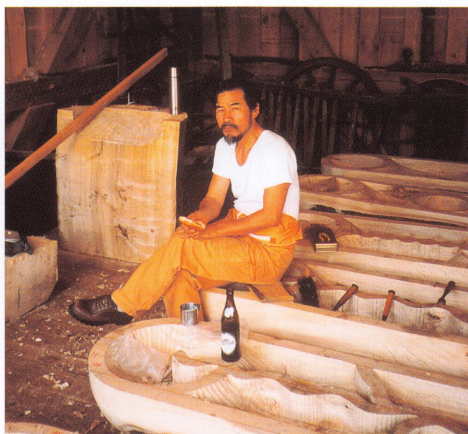
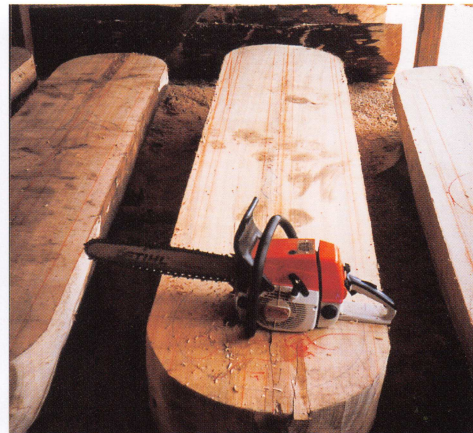
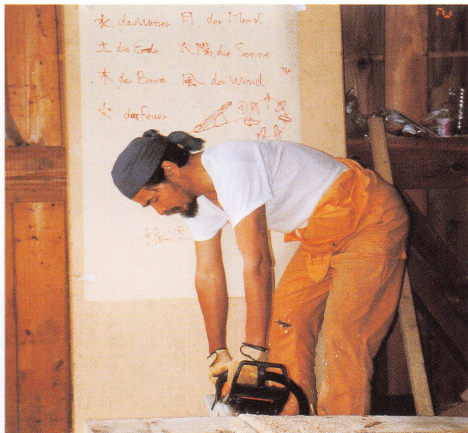
1999年、夏、旧東ドイツ ザクセン州フォクトランドで開催された国際木彫シンポジウムに日本より参加。チェコの国境に近いマルクノイキルヘン市エアルバッハ・オイバプレン地区での木彫シンポジウム会場は、この地域全体が農業博物館となっている。

7月14日から31日までの18日間が制作期間であり、参加国と参加者はチェコ3名、ポーランド2名、ドイツ4名、日本1名の10名の参加者によるものでした。

今回のテーマは、森の国であるドイツのイメージから「七つの森の種子」として制作した。



ドイツ・マルクノイキルヘン国際木彫シンポジウム・金賞受賞作品「七つの森の種子」1999
7点組 H1200~2000・W10000・D10000・ポプラ



ドイツ・マルクノイキルヘン国際木彫シンポジウム制作過程 1999



ドイツ・フルト市「平和の祭典」の作品「平和の種子」



「平和の種子」フルト市立美術館収蔵 1999
H700・W3500・D2000・ポプラ



「森の青い種子」 2000
H1000・W2500・D2500 楠・ネオン管



オゾンホールテーブル 2001
H2000・W2200・D1500 楠・ネオン管



「酸性雨の森」 2002
H1000・W900・D350 楠・樺



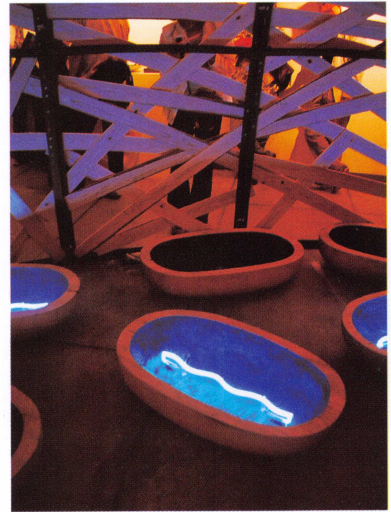
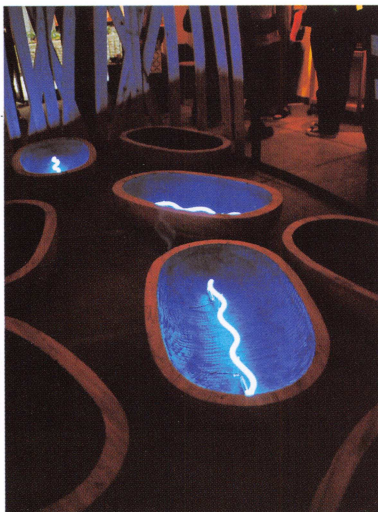
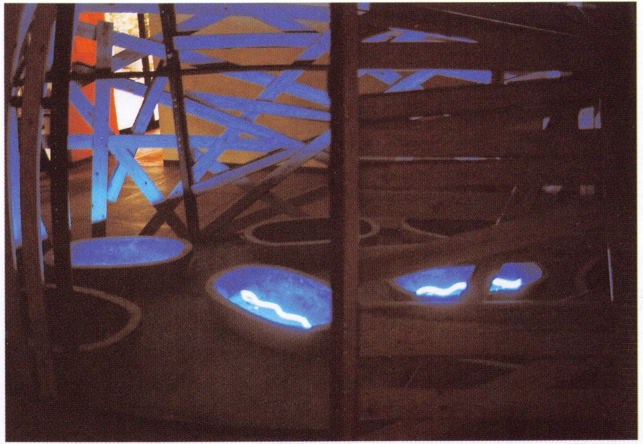
OZONE CRISIS 2002
H1200・W900・D400 鉄・楠・ネオン管

OZONE CRISIS

21世紀 この時代、自然界のバランスが微妙に崩れ始めている。その中でも特に大気の状態が刻々と悪化していると思われる。地球温暖化、二酸化炭素問題、オゾンホールが存在など一般的な情報や身近な場所での諸現象。それらの中で時折り、私自身が体感し、遭遇する事もある。

紫外線より身を守るシェルター、警告としての青い光、森を形成する諸要素、そして地球上で一番種類の多い「植物」の種子など、それら複合的なイメージを、インスタレーションとして創世紀の「ノアの箱舟」のように人類達の我行と愚行への警告とした。

OZONE CRISIS・2002-A



オゾンクライシス・2002-A・(インスタレーション) H2600・W6000・D2400 楠・鉄アングル・杉板・ネオン管 2002

OZONE CRISIS • 2002-B



オゾンクライシス 2002-B・(インсталレーション) H2600・W12000・D2400 楠・鉄アングル・杉板・ネオン管 2002